

美術館図書室の利活用に関する現状と課題

山口 結子

美術館とは、博物館の一種である社会教育施設である。博物館は、資料収集、整理保管、調査研究、教育普及の機能を果たしている。本研究は、美術館に設置された公開の美術館図書室をテーマとする。

美術館図書室は、図書館側から専門図書館に分類される。しかし、公開された美術館図書室の利用者は特定の専門分野に関心がある人々だけでなく美術館利用者一般であるため、幅広い利用者に資料を利用してもらうことが重要であると考えられる。しかし、美術館図書室の知名度は低く、実践研究や活動報告も少ない。特にその利活用について論じたものは見当たらず、調査や考察が不十分であると言える。

そこで、本研究では現代の美術館図書室の実態を明らかにし、美術館図書室について再検討すること、さらに利活用の観点から美術館図書室に着目し果たすべき役割を考察することを目的とする。これにより、美術館図書室の貴重な資料群や場所のより有効な利活用に資することができると思われる。

本研究では文献調査とアンケート調査を実施した。文献調査では、美術館図書室が扱う資料や担う役割から美術館図書室をめぐる議論の経緯を明らかにした。アンケート調査では、研究対象館を抽出し、概要調査とアンケートによる詳細調査を行い得られた結果を分析した。

文献調査の結果、美術館図書室は専門図書館に分類されるものの、利用のされ方や資料から特殊な位置付けがなされていることが分かった。また、美術館の事業においては、アート・ドキュメンテーションと教育普及の役割を担い発展してきたと考えられる。

概要調査において条件を満たした美術館図書室は 166 館存在した。現代の美術館図書室は名称から見て非常に多様であり、利用条件もない館が多い結果となった。アンケートによる詳細調査では、97 館の美術館図書室から回答が寄せられ、現代の美術館図書室の現状が示された。39%の館で利活用を促進するための取り組みを行ったことがあり、①広報・発信 ②イベント開催 ③コーナーの設置 ④認知を促す ⑤物理的な改善といった具体例が寄せられた。また、取り組みを行った館の 89%で効果があったとの回答があった。美術館図書室の課題としては、①蔵書数が多い、収蔵スペースについて ②周知について、利用者増 ③内容・サービスの向上 ④人手不足、適切な人員の確保が挙げられた。

現在の美術館図書室は利用者からの認知がされておらず、十分な利活用がされているとは言えない状況である。一つの美術館図書室が多様な役割を担っているからこそ利活用の方向も多く存在すると言える。したがって、各館において美術館図書室の位置付けを明確にし、利用者へとアピールすることで利活用におけるさらなる発展が見込めると考える。

(指導教員 白井 哲哉)